山岳クラブ／グーテンタック（ドイツ語　こんにちは）

月 報 やまふみ

ヒメリンゴの花

No.222　2014年（平成26年）5月11日発行　山踏み

会　　長　　／MT
事務局長　　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ST UR TT
印　　刷　／中央プリント（株）

もくじ

山行報告　・・・・・・・・・・・・　1～10
編集後記　・・・・・・・・・・・　10

3月24日（日）東谷山北西斜面（個人山行）

メンバー　T（L）、M、K

行程：　9:40 二居旧スキー場跡地発　12:10 東谷山頂上　1:30 17 号トンネル脇車デポ地

前日は、強風とガスでシッケイ沢を下りられず、西ゼンに急遽変更したので帰りが遅くなり、食事とお酒をいただいた後、偶然暖房の入った暖かいいいところを見つけてこれは天からの贈り物だと、マットを引きシュラフに入ってぐっすり眠れた。

朝、昨日の鍋の残りでつくった雑炊をいただき、さて今日はどうしましょうかということになり、予定では神楽峰なのだが、また今日も風が強そうで雲が結構早いようだった。昨日は強風とガスで大苦労しているので、つかの間の晴れ間は信用できない。

行ってみようかどうしようかとあれこれ考えていて、以前聞いたことのあるコースを偶然思い出した。今いる場所からもすぐだし、標高も高くないし、すぐ帰れそうだし、今日の付け足しの雰囲気にぴったりだったので、ここを試そうと言うことになった。
貝掛温泉の三国寄りトンネルの手前（国道 17 号線）近くに 1 台車をデポし、もう 1 台の車で二居村に向い

二居スキー場の跡地から、9 時 40 分に出発した。リフトが無い小さな二居スキー場から踏み跡がしっかりと付いていたので、東谷山経由日白山に行くスキーヤーか山登りの人たちかと思った。

登りやすい傾斜をつめていくと大きな鉄塔があり太い高圧線がかかっていた。これは柏崎の原発から東京に運ばれる電力で、いまは電気が通っていないかもしれないなどと話しながら、暖かい日差しに照らされて昨日の強風下で迷った時とは違うのんびりとした気分で登っていくとこの先から尾根は細くなりやがて東谷山が見えてきた。ややあるきずらい固い斜面を登っていくと、頂上には 10 人位の人が先着していた。到着は 12 時 10 分だった。小休止の後方向を定めて 1400mまで尾根伝いに下降してから斜面に入った。大きな木の樹林帯で傾斜も木の間隔も申し分なく雪も大変快適であった。ときどき止まり方位を確認しながら、いつかは藪に捕まるだろうと思って慎重に滑って行った。1000mを過ぎたあたりからどちらに滑ろうか探していると、沢沿いにいくつかのシュプールが見えた。自分達だけのコースのつもりだったのでシュプールは意外だった。沢沿いのシュプールにそって下降するとまもなく車のデポ地についた。

道路の雪の壁を下りて車まで行くと、今下りてきたところに次々とスキーヤーかボーダーかが下りてきている。知らなかったけどこれはメジャーなコースになっているかもしれない。木の間隔の開いた結構いい斜面が続いていて雪も良かったし山も一番手前の山で割と手軽に入れるし。雪の良い早い時期にまた入りたいとところだ。
予定どうり早めに下りられたので、道の駅で足湯につかりながら、あこがれのビールで乾杯し充分さまし、疲れをいやしてから家路についた。

K 津記

3月28日（土） 日光白根山（例会山行）

L TK SL ST YH MA

行程： 丸沼高原スキー場センターハウス前駐車場集合 8:00 ロープウエイ山頂駅登山口 8:55→武尊山ﾋﾞｭｰﾎﾟｲﾝﾄ 10:35→日光白根山山頂 11:10→12:00→ロープウエイ山頂駅 13:35

今回新潟組は各自現地へ、長野組は乗り合わせで現地集合です。7:45 センターハウス前に着くも、満車で入れてもらえず、下の駐車場まで戻り、ここは空きがあり OK。準備して集合場所へ、ギリギリセーフ。

L T さんからは『センターハウス前にいます。』と 7:18 にメールが入っていたし、Y さん、S さん組も 7:30 には着いていたとの事、一番近いはずの私が、一番遅、でした。

L さんがまとめて切符を購入。カード保証料 1000 円プラスで一人 2200 円。帰りにカード返却時に 1000 円返金との事です。
ロープウエイが動くのは 8:30。時間があるけど天気も良く、暖かいので並んで待つことに。

6 人乗りゴンドラに同乗の男性が 2 月大雪の時登った状況など話してくださる。

『やまふみ』5月号

山頂駅舎を出ると、白根山山頂が正面に迫ってきます。けれど、逆光。下山後に期待です。展望台からの志仏山、武尊山方面の眺めが素晴らしい。

暖かく、メンバー全員ジャケットは脱ぎ、8:55 赤い鳥居をくぐって出発です。出発後 15 分、トラバースが多くなるとのことでアイゼン装着して先へと歩きます。

10:35 トラバースの続く樹林帯を抜け、開けたところで、若者（と思われる）3 人パーティさん休憩中。シャッターをお願いする。

時折雪渓の中に入る夏道を辿りながら岩稜帯まで登ると、頂上がみえます。

11:10 日光白根山登頂です。素晴らしい晴天に恵まれ、360° の展望が広がっていました。

集合写真他、男体山をバックに記念撮影など楽しみ、

13:35 山頂駅舎に戻り、ロープウェイにて下山。温泉、山野草の店に立ち寄り、解散。充実した一日となりました。

M 下記

3月29日（土）空沢山～放山　山スキー　（個人山行）

CL MT　KE　TS

行程：6:00（519m）笹倉温泉→8:00 渡渉地点（900m）→10:30 空沢山頂上（1420m）滑降開始→12:00～13:00 西飛山ダム→15:00～15:30 放山→16:30 笹倉温泉到着

今シーズンの山スキーで初めて晴れた。2 週間前にもこのルートを計画したが、空沢山でガスがかかり、視界不良となり敗退したので、リベンジしたく計画した。2 週間前と大きく異なるのは、当然天気もだがラッセルがないことである。前回は前日に雪が降っており、最初からラッセルであったが、今回の雪はしまっており春スキーでの状態であった。また長丁場になるのでゆっくりと行けるよう、出発時間も 1 時間早くした。

笹倉温泉～空沢山までの状況は、”４月号のやまふみ”を参考にしてもらうということで割愛するが、火打川の徒渉は、やはり想像どおりに半分スノーブリッジは崩れており、前回のように板を履いてスムーズには渡ることはできなかった。先発 M 氏が、板を担ぎ、恐る恐る継ぎ接ぎをつないで渡るが、踏み込んだ雪が崩れ川に落ちそうになった。（HP に写真公開）ん～慎重にいかないと…。まぁなんとかクリアし、空沢山に続く尾根を登るが、今日はラッセルがないから楽である。今日はもう1回登りがあるので、飛ばさないようにし体力を温存する。尾根を登り詰めると、右手に焼

山が大きく目に入ってきた。“すばらしい。晴れているとこんな風に見えるのね…”（HP に写真公開）空沢山頂上で眼前にある焼山を堪能した後、滑る北東尾根を確認する。話し通りに樹林が少なく、素晴らしいバーンである。ここからは西飛山ダムは見えない。やや複雑な形にはなっているが、視界はあるので滑っていくうちに降り口はわかるであろう。さて、今日のメインディッシュのクロ沢に向かって 900m の斜面の滑降開始。“雪はやはり重かった。”それでもしまっているほうであり、まずまず楽しめる。途中傾斜がきつくなっているところで、滑ったところから雪が切れ、表層 20cm 程の雪崩を誘発してしまった。デブリの止まる地点がわかっていてもやはり怖い。ちょっとビビッてしまい滑るのを躊躇してしまう。（HP に写真公開）標高を下げていくと、雪は更に重くなり滑りにくくなる。

西飛山ダム手前の痩せ尾根を右に回りこみ、川にでる。正面にはダムの堰堤がある。ダムの堰堤を右にみて尾根を回りこみ、クロ沢を徒渉。次の週にはもうなくなっているであろう僅かにつながったスノーブリッジを静かに渡る。そして放山の尾根に登り始める。斜面のきついところは、雪がついてなく板をはずし登る。この難所であるクロ沢を徒渉し、尾根に取り付け、先が見えたということで大休憩をする。天気は穏やかであり、暑いくらいだ。日焼け止めを入念に塗る。さて、放山まで 700mの高低差を登りつめないといけない。もう少し林道を進んで尾根に取り付こうとしていたら、とても通過できるような林道ではなかった。ここで間違いと気づき、既に今いるところの尾根を登り詰めればいいということに気がついた。しかし、放山に登り返さない場合のシャルマン火打に向かうエスケープルートの林道が、あの状況であれば（HP に写真公開）、とてもじゃないけどエスケープにはならないし、落ちたら終わりよ！怖い！気を取り直し、700m 放山に向かって登り返す。暑いね～途中で水分補給の休憩をいれて約 2 時間ちょっとで放山に到着。再び焼山が見え、戻ってきたって感じ…

そこに、先週行なわれた焼山ヘリスキーの着地点があった。トレース跡が残っており、これに従っていけば間違いないねということで、最後の滑降を楽しむ。けれども、地形が複雑で凸凹があり、滑ったり漕いだり、徐々に樹林も増える。トレース跡に従って笹倉温泉前の林道にでて 16 時半前に終了となる。雪質はいまひとつであったが、こんな素晴らしい天気に恵まれ、目一杯に登り滑り、心地良い疲労感を得て、今までの不完全燃焼に終わっていた山行を払拭させてもらえる素晴らしい山行であった。

※今回の軌跡は GPS ログで HP に公開しています。　　T 島　記

4 月12日（土）御岳山（継子岳・僕らのライン）山スキー（個人山行）

メンバー：T 島（L）、M 井

行程：9:05 チャオ御岳ゲレンデトップ発　→　11：15 継子岳山頂　→　11：55 四ノ池昼食　→13：00 山頂発→　14：25 駐車場

御岳は昨年の GW に御岳ロープウェイ側から剣ヶ峰へ登っているが、チャオ御岳スキー場からの継子岳にすっきりとしたシュートがあるというので行ってみた。チャオ御岳スキー場に到着してびっくり。中京関西方面のナンバーを付けた車で駐車場は空きを探すのに苦労するほどいっぱいである。4 月も半ばのこの時期のこの混雑には驚いた。志賀や白馬でもこの時期のこんな混雑はあり得ない。名古屋や関西ではそんなに景気がいいのか？スキー・スノボ流行りか？などと思いつつリフト券購入の列に並ぶ。それにし

ても天気は素晴らしく良く、正面に御岳山、背後に乗鞍岳と素晴らしいロケーションである。この光景は登っている間もずっと続いているのがうれしい。

9:05 ゴンドラ最終駅から上部に続く樹林帯を登り始める。トレースはなかったが直に昨日以前のものと思われるトレースに合流、密な樹林帯を抜けるとすぐに氷化した急斜面になり、アイゼンを装着してスキーを担ぐ。アイゼンの歯は気持ち良くきくが、滑降にはまるで適さない露岩の多い氷の急斜面である。ふくらはぎが攣りそうになりながらも 2 時間ほどで山頂着。

山頂は風が強く、早々に南斜面の四ノ池へ滑り込むが、なんとこちらもまだガリガリの斜面であった。四ノ池の真ん中で昼食をとるが、登ってきた北斜面は当然まだ雪も緩んでなく滑れそうもないため、再度アイゼンで登り返してそのままアイゼンでスキーを担いで下りようということになった。この天気で、この雪の量で滑れないなんてとＴ島さんのボヤキしきり。

山頂まで登り返した後、とりあえず「僕らのライン」を見ようと下降地点から覗くと、こちらのラインは割と広いルンゼ状で雪が溜まっていて何とか滑れそうである。さすがに上部は凍っているため一段下がった雪の乗った場所でスキーを着けて滑り始めるが、風ででこぼこの斜面に、ところどころ凍った斜面が現れ、思い切っては滑れない。凍った斜面で転倒・滑落すれば樹林帯まで止まりそうもないため、おっかなびっくりである。途中からはスキー場に戻るために大きくトラバースをするため、フォールラインに向って滑れたのはそれほど長くはなかった。トラバースの途中でライチョウのペアが迷惑そうにお出迎え。やがて密な樹林帯とでこぼこな地形に苦しみながらもスキー場の途中に飛び出した。

後はゲレンデを滑って 14:25 駐車場に到着。帰りは二本木温泉のシュワシュワ天然炭酸泉の湯で体を温めた後、帰路に就いた。

M 井記

4月12日（土） 風吹大池～北野 山スキー（個人山行）

ＬＫ原 Ｋ池 Ｈ

行程：ロープウエイ終点 9：00→天狗原 10：30→唐松沢→風吹南外輪山 12：05→北野 15：05

登高差450m滑降差1530m滑降距離約9㎞？のロングコース。一昨日の低気圧が通り過ぎ本日は安定した高気圧が張り出す最高の山スキー日和となった。

ロープウエイは混雑していたが、一番乗りで出発。先日２件続けて発生した山スキーでの遭難事故を受けてのことだろう。ロープウエイチケット購入時に窓口で登山届を出すよ

うになっていた。ゴンドラに乗りながら稜線を眺め、ガラガラ沢や金山沢の滑りへと話が弾んだ。これから雪はザラメになり、快適な滑りが楽しめる時季になっている。

天狗原への登り中間辺りでアイゼンを付けた。今回初めてアイゼンを付けた。「な～んだ。こんなに楽に登れるのか。今までクラスト斜面をキックターンして苦労しながら登ったのに･･･」

下に居る時に無かった風も上に出れば結構吹いている。岩陰で一休みして唐松沢へと滑り込んだ。クラスとしている！と思ったら今度は締まった滑らない雪が溜っている･･･「つっつんのめる～～～！」とちょっとの間は苦労したが直ぐ快適な斜面となる。沢なので、右に左に上がり下がり斜面を自由自在に操って滑った･･･「わ～～～～い！きゃっほ～！」の気分るんるん滑りで、穴のある 1950m付近も難なく通り過ぎ、一気に 1750mまで降りる。

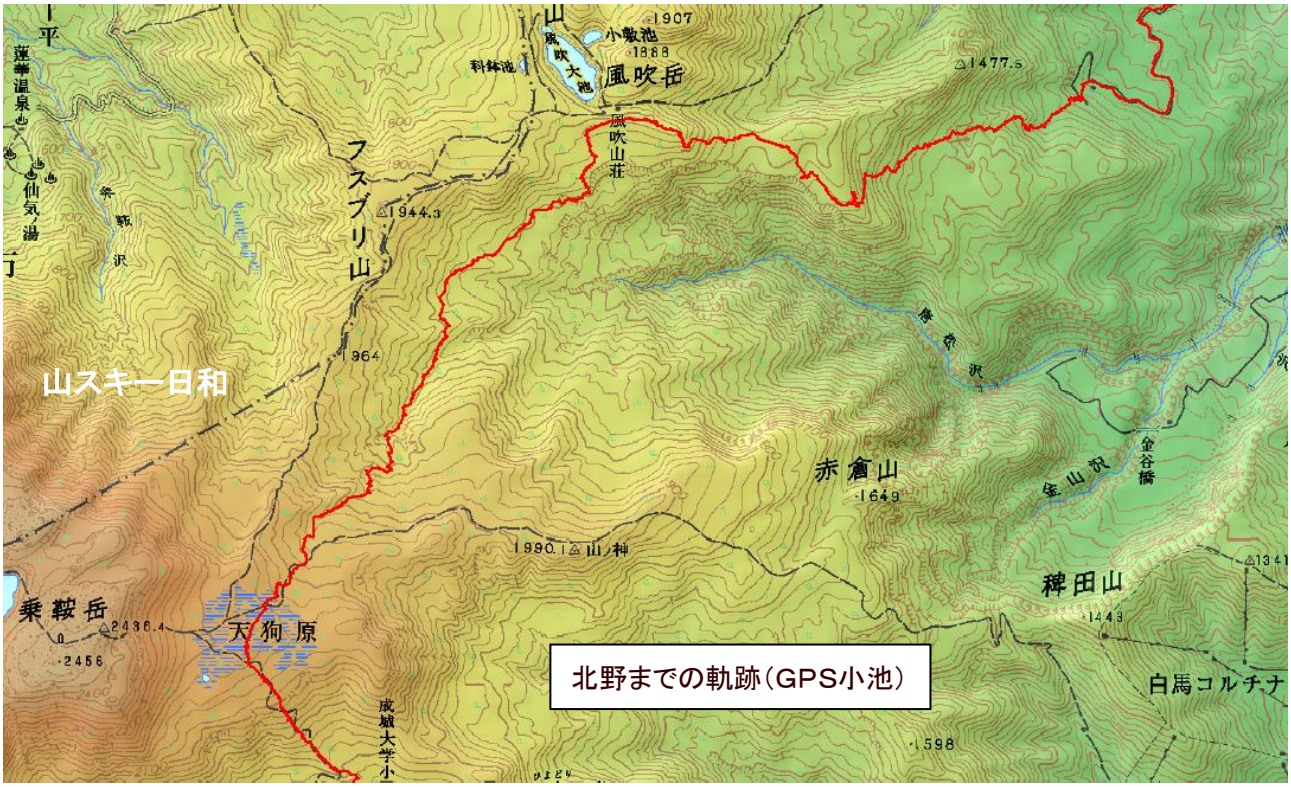
また大きな穴があるので左斜面に入り、温泉が出ている場所で一休み。休憩しながら白馬乗鞍を振り返る。今日は本当にいい日だ。来られなかった皆さん惜しいことをしました。

ここから少し登った所から沢の上部をうまく巻いて風吹山方面への登りに入った。風吹南外輪山に登り切った辺りで昼休憩。

さあ、下りです。･･･稜線の上はでこぼこしているとＫ原さんが言っていたが、確かに！短いスパンで上にぐい～んとなるのはどうも気分が優れない。そしていよいよ斜面に。少し滑ったら崖っぷちに出てしまった。右に寄りすぎたようだ。修正して左に行くと凄い急斜面。降りられるかもしれないけど慎重に他を探して下る。いい斜面がありました。しばらくこんな斜面とのことで渾身の滑りを一枚。カメラマンが悪いので上手くなくてごめん。

ここは複雑な地形でルートどりが難しいと思っていたが、この後もちょっとだけ外れた部分があったようだった。しかし、雪はザラメの最高条件で気持ちよく進んだ。下りながら、山の崩壊が残した複雑な地形を見て、体感して、楽しむことが出来た。山の中を縦横に滑り、登り、歩き、存分にスキーをやった。3:05 には北野に到着。芽を出したばかりの蕗のとうを摘んで帰路に着いた。たっぷり自然に浸かった一日となった。････満足････

Ｈ 記



キタさんのおまけコーナー

※千国揚尾根経由の本コースはクラシックルートであるが、唐松沢経由のルートを取れば、少ない登りで標高差 1530m を滑る事ができる変化に富んだとても魅力的なツアーを楽しめる。
※コース読みが複雑な故、残雪期の好天時に実施するのが良い。
※唐松沢に入ってしまえばエスケープルートはない。天狗原で決行可否を判断する事。
※ロープウェイを降りたら右手窪を過ぎて小尾根沿いに登る。（左手は栂池・金山沢方面）
※天狗原からは、山の神尾根と千国揚尾根の間にある唐松沢源頭の北東中斜面に滑り込む。雪質良ければ快適。
※1950m と 1850m？付近には滝壺穴が開いている。落差 10m 以上あり、落ちたら助からない。慎重に通過する事。（今回上部滝壺は雪に埋まった垂直雪面）
※1730m 付近の巨大滝壺穴は、この時期両岸とも雪が落ち絶壁となっていて、通過できない。少し上部の

1750m 付近の中急斜面を登って 1783m 独標の西側へ登る。此処が最初のポイント。
※尾根を越したら、標高を落とさぬよう沢・尾根をトラバースすれば崩壊斜面の底に出られる。
※前方北斜面に何ヶ所か裸地が見えるが、高い地温のため。温泉化作用により酸化脱色され、岩石が白く脆く変質している。落石もある。また、スキーで通過する底部にも高地温による裸地・穴が 3 箇所程開いている。
※風吹南外輪山へは、左手崩壊斜面の下を巻いて正面の比較的なだらかな尾根沿いに北に登る。針葉樹林を突っ切り、雪庇連なる外輪山を右に巻いて風吹山荘横へ登るのがベスト。
※休憩ポイントは、1800m か 1780m 地点。風吹岳の眺めが良い。
※ここからが最初のハイライト滑降。35°のブナと岳樺疎林を縫う快適ザラメバーンである。
※滑り着いたら、ほぼ水平に近い針葉樹林下を指導標通りに直進する。
※肩に着いたら、そのまま滑り降りず、左にある指導標に導かれて 1627m 独標南の肩を目指す。
※目前に落ち込む標高差 250m 強の新大崩壊斜面に滑り込む。幼木広葉樹を縫う第2のハイライトである。
※1333m 崩壊堆積地の左手沢源頭を目指し、3m 登った後に樹林下を滑っていけばやがて林道に出る。
※近年植林杉が大きくなり、林下は滑り難くなった。斜度のない林道を辿れば、確実にため池公園に出られる。
※多雪期なら、池南側の窪を廃村北野まで滑る事ができる。

4月23日（水） 風吹大池～北野 山スキー（個人山行）

LK 原 H
ロープウェイ上 9:25→天狗原（10:30～10:40）→唐松沢 1750m11:00→1783m 独標西 11:25→温泉湧水崩壊地 12:00→風吹岳外輪山 1790m12:45→大崩壊急斜面 13:10→1130m 雨飾山展望平地 14:00→825m 池 14:50

前回、風吹外輪山端から南に巻いて滑ってしまった事と不確かな記憶・迷った事がないという過信から、指導標を見ながら1627m 独標際を巻かずに南の窪を滑って少し遠回りをしてしまったため、今回は正規ルートでオイシイ斜面を堪能しようとのリベンジだ。

※5:30 更埴国道情報ステーションで H さんと待ち合わせ、峠越えで信州新町へ出て廃村北野に向かう。

※今回は集落上の池までは除雪済み。

※寒気残りの西高気圧の為、北風と締まり雪を懸念。白馬岳稜線に南に棚引く雲が気になるが快晴の絶好ツアー日和。

※平日の為、ゴンドラ稼動は8:30。Pはがら空き。皆さんよく承知。当然始発乗車。

※栂池からは風を嫌い支尾根の右手窪を登る。1950m 肩からアイゼンも付けてのジグザグ登行。天狗原はやはり吹きさらし。

※長居は無用、早々に滑り出す。カリカリバーンを直進し、ザラメを狙って唐松沢左岸側へ向かう。締まり雪の前回と違い、快適滑降！Hさんと歓声を上げて楽しむ。

※沢底は表面ザラメの楽々滑走。前回垂直壁となっていた最初の滝壺は二段クレバスとなっていた。次の滝壺穴を左から巻き、前回より僅か下った絶壁大滝壺の裸地手前でシールをつける。ここまで20分で来れた。

※前回目をつけておいた左岸の岳樺点在する緩斜面に取り付き、前回と同じ1783m 独標西に出る。此処でのんびり休憩。天気と雪質の不安全く無し。足は疲れるが気持ちは余裕。

※此処から高度を下げないようにトラバース。沢と支尾根を越えれば温泉湧水崩壊地の上台地。振り返れば乗鞍岳がたおやかだ。

※台地北雪庇下には何時も長いクレバスが口を開いている。

※雪の繋がった所からドロップし、温泉化作用で白い裸地になっている左手上崩壊斜面や、落石・大きくなった温泉湧出穴を眺めて、大池方面への樹木点在支尾根手前の斜面を登る。振り返れば絶景！

※緩いシラビソ林をくぐり抜け、前回同様雪庇連なる風吹外輪山の下を右に巻いて小屋上に乗る。暫し歩いて1790m 地点で横前倉山の急斜面を眺めて休憩。今回ビール不携帯を後悔する(T_T)

※さて、いよいよ1780m 尾根端からの滑降だ!!(^_^)v 今回は真下に滑ろう。突端から覗き込むと、最初は幅5m の急斜面(@_@;)！小ターンと横滑りで10m 程下って右に抜けると、後は岳樺点在する30° の大斜面！**シュテム・パラレルでザラメを満喫！(^o^)**

※五分強針葉樹林下を歩けば問題のポイント。今回は指導標左から巻く。1627m 独標際の急斜面をトラバースすれば大崩壊斜面の直上だ。

※部分的には35° を超える。ザラメは腐り気味なので、林さんとスピードを抑えてドロップイン！1333m 堆積台地まで三段の急斜面を楽しむ。中間からコースの左手コルに向けて斜滑降気味に下る。

※コル手前の凹地を5m 登り小休止。後は針葉樹林・広葉樹林と滑れば林道だ。

※1130m 沢底『雨飾山展望平地』でお休み。後急斜面を50m 下れば林道だ。時刻はまだ2時前。H さんとのんびり雑談。

※最後の広葉樹林下を滑って林道着。そう蜜でない杉の植林地をショートカット。以前あったプレハブは見つからず。前回辿った林道をショートカットして左に下ると直ぐ池が見えた。除雪は池の僅か50m 先までだった。池Pにデポして正解だった。

※これでメデタシメデタシ！(*^_^*)…になる筈だったのだが…前回工事中で中谷橋が通行不能だったので（今回も工事中標識あり）、（気を利かせて今日はバッチリ～(^_^)v）と喜び勇んで幸田文の崩壊地碑から狭くうねった迂回路を国道直前の池原下集落まで来ると…**なんと工事中で通行不能！ナンジャコリャ(@_@)！**

聞くと、「今日は此処を工事してるので中谷橋は通行可にしてある」とのこと。そんな話聞いてない！と言ってみたところで始まらない。また元の細クネ道を戻ったのだった。皆さん、『工事中』には気をつけましょう。

※本コースを滑ったグーテンメンバーは数人程度と思うが、変化あり、登り僅かで滑り応えのある魅力的なコースだ。皆さん、来シーズン是非楽しみましょう。

※パソコンメールなぜか送信ブロックで使えず、今回も携帯メール送信。打ち込みに3時間以上掛かってしまった。あ～あ、指が疲れたなぁ～(*_*)

編 集 後 記

新年度早々インフルエンザにかかってしまった。最初は大して熱もでなかったので普通に風邪薬を処方してもらって職場も出ていたものだから、後で熱が上ってからは大ヒンシュクです。うちの部署でインフルが出たと庁内で噂が広がるし、有休はいきなし消化しまくりだし、なかなか体調回復せず山は天気がいいのにお預けだし…(T_T)。せめては誰もウィルスをもらうことなく済んだ(たぶん)のが幸いです。
／とっこ

同級会の名簿作成の役がきてエクセルを使うはめになった。おかげで勉強になった。名簿を五十音順に並べる方法とか個人保護のためにパスワードを設定する方法を同級生に教わった。そこでついでに会の名簿が1年ごとに年齢が自動で更新されていて以前から感心していたので調べてみてなんとか分かった。DATEDIF 関数使うのだ。わが会の名簿の作成者はこれをご存じだったのだから感服した。なんとも便利なものだ。さらに会の名簿を年齢順に並べてみることができた。正規分布でなくシニア偏分布（笑）であった。／ゾラ

今月号から編集を担当させていただくＴです。最近、土日にスケジュールが入ってなかなか山行に参加できませんが、暇なので毎週平日に登っています。平日に登る予定がある方、ぜひお声をおかけください。
／エリパパ　（エリーは愛犬ポメラニアンの名前です）